



～持ち上げない、抱えあげない看護・介護を～

ノーリフトケア®セミナーを開催



7月4日（土）、ラボール京都2階ホールにて、「ノーリフトケア®・セミナー」を開催し、48人（業者含む）が参加しました。3回目となる今回のセミナーは、ノーリフトケアの理念を学ぶとともに、計7社の福祉機器メーカーの協力を得て、リフトやスタンディングアシスト、介助ベルト等の福祉

用具を実際に触れる体験をあわせて行いました。

講演では、日本ノーリフト協会特別顧問（びわこリハビリテーション専門職大学教授）の埴田和史先生を講師に迎え、「ノーリフトケアの理念」をテーマに、医療・介護における労働安全衛生の視点からお話をいただきました。科学的なデータをもとに、腰痛が離職理由の主な要因となっていることや、腰痛発生のメカニズム、高知県で進められている先進的な取り組みのなどについてわかりやすく解説いただきました。

参加者からは、「ボディメカニクスを実践しても腰痛になることを初めて知った」「腰痛が労災になるとは思わなかった」「『抱きかかえても腰痛は起きない』はウソの教育であり、やりがい搾取にメンタルを追い詰められるという言葉に救われました」「ノーリフトケアが、利用者や家族、職員にとってお互いに安全で快適な環境作りに必要のものであることを理解した」等の多くの感想が寄せられました。



また、埴田先生からは、「まずは一つの職場で実践を積み重ねることが、やがて職場全体、地域全体へと広がる」と、ノーリフトケア普及の重要な視点も示されました。

講演後は3グループに分かれ、時間が経つのも忘れるほど熱心実際にリフト体験をした後に、感想交流を行いました。参加者からは、「訪問介護でもスライドボードやシートはすぐに導入できるので、体を張るのが美德という職場の観念を少しずつ変えていけたら、と思います」「スタンディングリフトを経験し、操作方法が簡単で患者も苦痛がないことに驚きました」「スライディングシートが院内に多数あるが、使用され

ていない。気長に使用し続けたいと思います」と、明日から活かせる、そして実践につながる前向きな意見が多く聞かれました。

今回のセミナーを通じて、医療・介護労働者が安全で健康に働き続けられることができ、患者・利用者が安全に快適に生活できる職場をつくるためには、ノーリフトケアの理念を積極的に活用することが重要であることを確認しました。

